

# [dōnk]

DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418

418, Komei-cho Tsu-shi

TEL 059-226-2766

FAX 059-229-0967

N°89 septembre 2010 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

## 三重日仏協会 秋の主催事業

新企画

### 〈渚のサロン〉 第1回

#### 精神科医・教授・オケ指揮者の大谷正人さん招く

10/30  
(土)

協会創立25周年をまえに、さらに新しい文化活動をという要望にこたえ、矢野隆嗣理事を中心に表記のサロンが実現することになりました。津市の阿漕海岸に面したビルの1室をお借りして、会員が気楽に楽しめる集いをめざすということです。主として三重県在住で活躍されている方をゲストにお招きしてお話をうかがいますが、第1回は三重大教育学部教授、精神科医、伊勢管弦楽団の常任指揮者というマルチな活躍で高名な大谷正人氏（写真）をお招きすることとなりました。きっと心に残るお話が聞けることでしょう。



日 時：10月30日(土) 18:00

場 所：グリソン・ビル（津市津興・倉本健康管理システム）

お話のテーマ：「音楽と精神医学の出会いとところ」

お話のあとは潮騒の音を聞きながら、ゲストを囲んでワインと食事を楽しめます。(会費未定)

9/29  
(木)

### グットマンさんが四日市で文化講演会

#### 『フランス語とフランス文化・国家との関係』

三重日仏協会常務理事で三重大学人文学部准教授のティエリ・グットマンさんの講演会が下記のように開催されます。四日市在住会員の企画による当地では初めての文化講演会です。政治学が専門で、アルザス地方ご出身の先生のフランス語論はたいへん興味深く、ぜひお誘い合わせてご来聴ください。

日 時：9月29日(水) 19:00～20:45

場 所：じばさん三重 会議室（四日市市安島1-3-18 TEL 059-353-8100）

四日市フランス語教室との共催。一般公開、入場無料です。

## 小城のあこがれ

住谷史雄

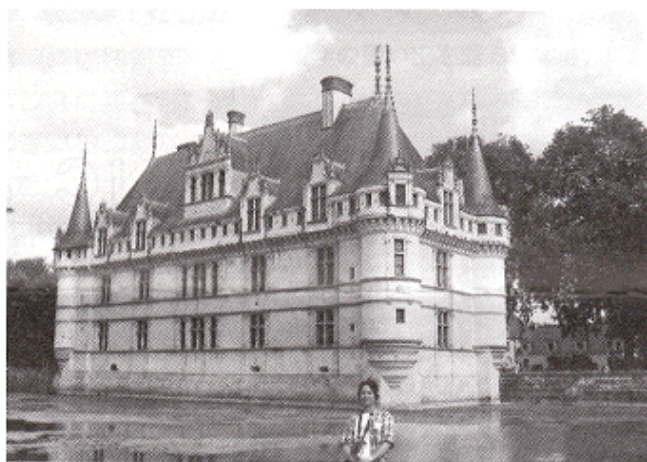
小学校低学年の音楽の教科書の表紙に、水面に美しい姿を映す小さなお城の写真が使われていたのを、ずっと忘れずにいました。

実家が東京の下町で営んでいた喫茶店では、店内をいつも外国の音楽が流れていました。高度成長時代、あふれかえる米国文化。ロックやゴーゴー（discotheque などというものは存在せず）が全盛。小さな子どもにとって、外国人の顔がみんな同じに見えるように、日本語以外の歌詞はすべて同じに聞こえる。でも、どういふわけか一つだけ特に美しく聞こえる言葉がある。言葉自体が音楽になっている。それがフランス語でした。（ちなみに聴いていたのは、ダニエル・ヴィダルの『天使の落書き』だったということはずいぶん後で判明しました）

人一倍強い好奇心のおもむくまま、書店でフランス語に関する本など（内容が理解できたかどうかは別にして）を買い求めて読む、というより眺めていました。「hは発音しない」「語尾の子音は発音しない」「名詞には男性と女性がある」というフランス語の特徴に驚き、当時のカネボウ化粧品のCM音楽に使われていたフレンチポップスを口ずさみながらも、受験で必須の英語の勉強にかまけて、いつの間にかフランス語からは離れていったようです。フランスだけでなく、西欧文化全般に興味を持ち始めたということも影響していたかもしれません。（高校の世界史教科書は購入一週間で読破してから、得意科目の一つになりました。これは社会人となって国際的な仕事をするうえで後に大いに役に立つこととなります）大学も「就職に有利」ということで法学部に進学、フランス語は第2外国語として履修しましたが、専門として学んだことは金輪際ありません。（仏文・仏語学科に進学しなかったのは一生の後悔の一つです）

そんなフランスへの「憧れ」が現実生活と重なるきっかけとなったのは、入社5年目、27歳で会社から派遣されたフランス留学でした。日本新聞協会とEC（当時）の間でジャーナリストの交換留学の協定があり、私がフランスに興味をもっていることを知った国際部長（ブリュッセル、パリ、ワシントン支局長を歴任。元名古屋商大教授）が私に内緒で協会に応募していたのでした。昭和天皇逝去、天安門事件などで勉強する時間もないまま、革命200年の記念行事が終わったばかりの7月下旬のパリに降り立ちましたが、フランス語が全然話せないのも、カフェに入ってもコーヒー一杯ろくに注文できない。「Jus d'orange」を注文したはずなのに「soupe d'oignon」が出てきたことも。（これはさすがに「意地悪されたんだよ」というのがフランス人の友人の解説ですが）

ところが、留学先の「Journalistes en Europe」のプログラムは「年に4回欧州各地で好きなテーマでフランス語か英語かドイツ語で記事を書き、ニュース雑誌をつくること」。フランス語



アゼー・ル・リドー



---

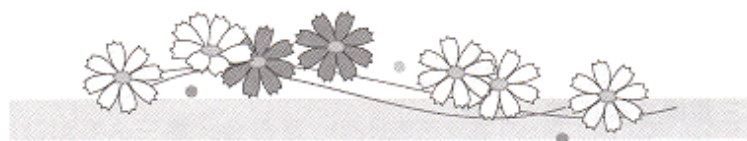
を学ぶための「語学留学」ではありませんでした。世界各国から集まった記者たちも、すでにフランス語が話せる欧州出身者を除けば、アジアや中東、アフリカの記者は英語でコミュニケーションし、豪州やニュージーランドの記者にいたっては「英語で世界が理解できる。フランス語なんか身につける必要性がない」という始末。それでも、取材旅行（私はハンガリー「東欧経済改革」、西独「ネオナチ」、イタリア「EC議長国」、スウェーデン「原発廃棄」を選びました）から帰って必死でフランス語で書きあげた原稿をカナダ（ケベック）の記者に添削してもらったり、パリの町で生活の中で使ったりして少しずつフランス語が話せるようになりました。そのときに気づいたのは、フランス人は「故意に英語を話さない」のではなく、「普通のフランス人は英語が話せない」ということ。当たり前です。フランス国内で生活している分には、英語（外国語）を使う必要がないからです。カフェで英国人旅行者とウェイトレス（もちろんフランス人）の会話を私が通訳する、なんて一幕もありました。それはイタリアでもスペインでも、エジプトでも中国でも同じでしょう。身をもって学んだ「（日本人を含む非英語圏の人間にとって）英語は外国語の一つに過ぎず、世界の文化は実に多様である」という「再確認」が、もしかしたらこの留学の最大の収穫なのかもしれません。

そういう「発見」もさることながら、パリという心ふくらむ町で、世界の記者仲間とともに学び、遊び、暮らしたことが、私とフランスの「因縁」を決定づけたともいえましょう。フランスとの付き合いはいいことばかりではありません。パリのメトロの駅では強盗に6000フラン奪われました。お役所の窓口の対応のお粗末さには何度怒りを抑えるのに苦労したことでしょう。東京のフランス大使公邸で毎年開かれる「革命記念パーティー」では、残ったチーズをめぐる大使閣下とひと悶着も。

1年間の「異文化の洗礼」を終えて帰国、さっそく実用フランス語技能検定試験に挑戦しましたが、「語学」として学んだことがないためか、2級合格に4年、1級合格に5年かかってしまいました。国家資格の通訳案内士試験は、1次には一発で合格したものの、2次の面接対策をしていなかったため不合格。フランス人と模擬面接を繰り返し次の年に2次だけ受験して最終合格することができました。東京・駿河台のアテネフランセでも「時事フランス語」の授業に週一回通うなど細々と勉強を続けていました。「勉強」といっては疲れますし、飽きもします。フランスの文学、音楽、美術、映画など広く文化に親しんで「楽しむ」ことを心がけています。今は白水社の月刊誌『ふらんす』に小さな連載を書かせていただいています。

2006年夏には家族とフランス旅行。ロワールの小城を訪れることも忘れませんでした。それが40年近く前に音楽の教科書の表紙で見た、あのアゼー・ル・リドーです。

（すみやふみお・日本経済新聞 津支局長）



## 2010年度総会と「パリ祭」

### 奈良日仏・坂本会長招き盛大に!!

2010年度三重日仏協会の総会と恒例の「パリ祭」は、7月12日津市の都ホテルで開催。今年は記念講演にお隣の奈良日仏協会会長で元奈良交通社長・坂本成彦氏を迎えました。坂本氏は、近鉄の社員であった1970年代にフランスの鉄道事情（特に技術面）の研修のため仏政府給費留学生として1年間フランスに滞在した経験があり、その思い出や日本とフランス文化の違いの印象などを「私とフランス」と題して生き生きと語られました。

講演のあと「パリ祭」パーティーでも、氏が津市のご出身であることから、高校の同窓生たちが多数参加して、いつになく盛大な会となりました。また鈴鹿市出身のジャズ・ピアニスト・本居美佳さんのピアノとともに、全員でシャンソンを合唱するなど楽しい集いとなりました。



留学の思い出を語る坂本さん



「オ・シャンゼリゼ」の大合唱

## 秋の後援事業

10/2  
(土)

### <Parfum de France> 「フランスの香り」

#### 近づく アテフ・ハリム ヴァイオリンリサイタル

前号でもお知らせしましたが、フランスの名ヴァイオリニスト アテフ・ハリムさんの演奏会の日が近づいています。今回はフランスの有名なイ長調ソナタや、ドビュッシー「月の光」、サンサーンス「死の舞踏」、マスネ「タイスの瞑想曲」などフランス音楽の名曲ばかりの魅力的な構成です。

日時：10月2日(土) 14:00 開演  
場所：津リージョンプラザ お城ホール  
入場料：一般 前売り 3,500円(当日 4,000円) ・学生 前売り 1,500円(当日 2,000円)  
チケット申し込みは、井土(津・226-2766)、豊田(四日市・351-8031)まで。

11/21  
(日)

### 映画『ご縁玉 パリから大分へ』DVD上映会

#### フランス人セロ奏者と大分の女性がん患者との感動の交流

大分でくいのちの授業>を続けてきた養護教諭で乳癌患者の山田泉さんと、ベトナム孤児としてフランスで育てられ、いまや国際的に活躍するパリのセロ奏者エリック・マリア・クチュリエさんとの不思議な縁につながる交流を描いた感動的なドキュメンタリー作品です。三重県内初公開。監督・江口方康(パリ在住)。

講堂をよい映画の上映にも使ってはどうかという県立美術館の意向に、毎年津市で映画祭を開催している三重映画フェスティバル実行委員会がこたえ共催が実現しました。

日時：11月22日(日) 午前10:30・午後2:00 2回上映  
場所：三重県立美術館 講堂  
入場料：一般 前売り 800円(当日 1,000円)  
申し込み、お問い合わせは事務局・滝澤090-4867-1476)まで。